郷土人形データベース
−主題と表現の地理的多様性−

河野一隆・藤田晴啓

The Data Base of Folk Dolls
-Geographical Diversity in Themes and Representations-

Kazutaka KAWANO　Haruhiro FUJITA

Abstract: A part of over 13,000 collections of folk dolls of Kyushu National Museum, predominantly produced in Japan from late Edo to early Heisei eras were archived by the efforts of volunteer works. The folk doll database has the ordinary list/category search as well as the geographical search functions of GLOBALBASE, to adopt the various needs of its users. The Fushimi dolls characterized as “good fortune” by those who made pilgrimage to Fushimi-Inari in early Edo era as souvenir, were distributed to all parts of Japan, later locally modified and developed as folk dolls, reflecting regional cultures. One can find a geographical diversity in themes and representations, under the strong influence of Kitamae freight, connecting northern ports of Japan.

Keywords: 郷土人形（Folk Dolls），九州国立博物館（Kyushu National Museum），伏見人形（Fushimi Dolls），主題と表現の地理的多様性（Geographical Diversity in Themes and Representations）

１．九州国立博物館の郷土人形コレクション

九州国立博物館は，アジア・ヨーロッパとの文化交流をテーマとし，展示や作品収集，文化財の保存修復などの博物館活動につとめているが，収蔵資料の中でも核のひとつとなっているのが,福岡市の故秋吉元氏から寄贈された 13,000 点におよぶ郷土人形のコレクションである．平成 19 年度より秋吉氏のご指導を仰ぎつつ，ボランティアが主体となって調査・整理・記録作業を行ってきた．その成果である調書記載データ(作者・年代・素材・分類・人形のテーマ・法量など)，作品写真および製作地などの属性情報は，GLOBALBASE による地理情報と連携するデータベースを構築した．

また，館内の体験型展示室「あじっぱ」で年３回，テーマを定めた企画展示を行っており，郷土人形はたびたび展示されている．

河野一隆　〒818-0118　福岡県太宰府市石坂 4-7-2
九州国立博物館　企画課 文化交流展室
Phone：092-918-2813

図１　郷土人形の展示風景(「天神さま」)

２．郷土人形とは

郷土人形とは，元来，京都伏見稲荷の門前で売られていた「土人形」をルーツとし，江戸後期の伏見参詣の興隆と共に「京みやげ」として全国へ波及，各地で多彩な展開を見せた(足立 1982)．参勤交代や上洛の折々には，北前船が寄港する港町，門前町や湯治場などで買い求められ，明治初期にあたって最盛期を迎えるが，明治後期には雛人

形や節句人形に押されて衰退する．

郷土人形(土人形)の製作は，まず原型から型を起こし，それに陶土を押し当てて量産する．その後，乾燥させて素焼きした後に，さまざまな顔料によって色付けし，再度，焼いて仕上げる．型の移動あるいは型の磨耗によって同じ型を使用して，多種多様な人形が生産されることもある．ある所では金太郎人形の鉞の部分が，他所では鯛抱き人形の鯛の尻尾に変わったりする．これは郷土人形のおおらかさを示している反面で，地域的なまとまりを抽出することを難しくし，その分布はおおまかな地域の志向を反映するに過ぎない．

３．郷土人形の地域的特徴

３.１ 東北・北陸・関東　豪雪地帯のこの地域では，古くから農閑期にわら細工や木工製品と共に，子どもたちの愛玩用として人形や玩具が作られており，地域の特産品として評判となるものも多く出てきた．庶民の暮らしから生まれた素朴な郷土人形は，江戸時代には農家や下級武士の副業として盛んに制作された．

３.２ 中部・近畿　京都伏見人形の制作技法が近隣諸国に広がり，多種多様な人形が作られた．多くはその地の風俗や動物などをあらわしたものが多いが，世相を反映したものや歌舞伎や武者ものなど，庶民の娯楽に題材をとった豪華なものも多く作られた．なかでも伏見人形は土人形というより，美術品としての評価も高く，その技法は全国の人形職人の模範となった．

３.３ 中国・四国　この地域では良質の土に恵まれ，古くから陶器や瓦が生産されていた．時代が下るにつれて土人形も作られるようになり，子ども用玩具として張子人形も多く作られた．四国徳島県では人形浄瑠璃が盛んとなるにつれ，芝居に使用する首人形が多く作られた．

３.４ 九州　江戸時代に伏見の技法が伝わり，古博多人形として流通し．また，鎖国時代唯一海外に開かれた長崎では，異国情緒豊かな人形が作られ，薩摩周辺では朝鮮陶工技法の流れをくんだ土人形が作られた．歴史的，地域的にみて海外の影響や世相を反映したものが多い．

４．主題と表現の地理的多様性

天神は列島全域に亙って展開するが，太宰府天満宮の門前町では希薄でむしろそれ以外の地域に多い．また，一般に牛に乗った姿で表される天神が，青森土人形（青森市）では馬に跨り，後ろを振り返るという異例である．この馬も飾り馬で福島県(相馬市野馬追人形)など東北に多い．**動物**で地域性を示すものは，金魚形土鈴(郡山土人形)，鯨形土笛(高知県)がある．**歌舞伎物**では，地歌舞伎が多く残る東海地方と「伽羅先代萩」を題材とした東北南部(仙台市周辺)に核がある．**武者物**は上方を外して，東海から東日本に多く，女物は東北・北陸・山陰の中でも日本海沿岸に重点がある．注目されるのは，肩に子供を乗せた人形で，子供が天神様に代わったり（相良土人形：山形県米沢市），提燈に代わったり（姫土人形：岐阜県可児市）など融通無碍である．

５．まとめ

郷土人形は製作・波及の経緯が複雑であり，江戸時代の北方船航路に代表される海運路や地域間関係により入り組んだ状況を呈する．北前船が就航する港町，湯治場，門前町などで土産ものとして郷土人形が多く売られたことにより，日本海側産地に題材や表現により大きな多様性が存在することが判明した

参考文献

九州国立博物館　郷土人形データベース
（http://kyuhaku.globalbase.org/kyodo-ningyo/）
足立孔「全国郷土人形図鑑」光芸出版　1982 年